

指定管理者評価表(外部評価シート)

1. 基本事項

評価対象期間		平成29年4月1日 ~ 平成31年3月31日	
施 設 の 概 要		指 定 管 理 の 状 況	
名 称	可児市体育施設	指 定 管 理 者	名 称 KSCグループ(代表団体:ミズノスポーツサービス株式会社)
所 在 地	可児市内12か所(別紙「指定管理施設一覧表」参照)	所在地	大阪府大阪市中央区北浜四丁目1番23号
設 置 目 的	可児市体育施設は「スポーツを通じて、市民の健康増進、明るく豊かな市民生活の形成及び健全な青少年の育成を図る」ことを目的として設置。	指定管理期間	平成29年4月1日 ~ 令和4年3月31日 (1期目)
		選 定 種 別	(公募)・非公募 利用料金制 (採用)(一部・完全)・不採用
供用開始年月	別紙「指定管理施設一覧表」参照	業 務 内 容	(1) 施設の管理に関する業務 (2) 施設の使用許可に関する業務 (3) 施設の使用にかかる料金に関する業務 (4) 施設の維持管理に関する業務 (5) 前(1)~(4)に掲げるもののほか、市長が必要と認める業務
施設所管部署	文化スポーツ部文化スポーツ課		

2. 施設の運営状況

① 利用状況

項 目	平成29年度(1年目)		平成30年度(2年目)	
開 館 日 数	4,284	日	4,284	日
施設利用者数	320,887	人	331,512	人
施設稼働率	43.75%	%	43.47%	%

② 自主事業実施状況

項 目	平成29年度(1年目)		平成30年度(2年目)	
開 催 回 数	132	回	250	回
参 加 人 数	1,342	人	2,834	人

③ 主な自主事業の内容

実 施 年 度	事 業 の 名 称 等	参 加 人 数
平成29、30年度	トレーニング講習会	1,518 人
平成29、30年度	ミズノスポーツ教室(小学生対象)	78 人
平成29、30年度	運動会必勝塾(小学生対象)	119 人
平成29、31年度	コツ骨体操・ノビ伸体操	420 人
平成29年度	ミズノビクトリークリニック(バドミントン・実業団選手による実技指導)	42 人
平成30年度	ミズノビクトリークリニック(柔道・有名選手による実技指導)	30 人
平成30年度	ソフトテニス教室	269 人

3. 収支状況

① 収 入

単位:円

項 目	平成29年度(1年目)	平成30年度(2年目)	
	実績	計画	実績
指定管理料	72,500,000	72,500,000	72,500,000
利用料収入	31,401,000	30,300,000	31,851,000
自主事業収入	3,536,000	4,281,000	7,527,000
収入計 A	107,437,000	107,081,000	111,878,000

② 支 出

単位:円

項 目	平成29年度(1年目)	平成30年度(2年目)	
	実績	計画	実績
人 件 費	26,300,000	29,500,000	27,912,000
管 理 費	57,573,000	57,000,000	51,613,000
事 業 費	4,590,000	4,360,000	4,013,000
事 務 費	7,396,000	10,210,000	10,658,000
事業経費	1,835,000	1,730,000	1,658,000
自主事業等	1,238,000	3,101,000	4,085,000
そ の 他			
支出計 B	98,932,000	105,901,000	99,939,000
収支 A-B	8,505,000	1,180,000	11,939,000

4. 評価結果

区 分	評 価 項 目	評 価 内 容	一 次 評 価(施設所管課)		二 次 評 価(選定評価委員会)	
			評 価 理 由 等	評 価	評 価 理 由 等	評 価
業務の履行	事業計画書及び協定書に掲げる業務の実施状況	事業計画書や協定書に掲げる業務が確実に実行されているか	概ね計画通りに実施することが出来ている。	B	・災害級の異常高温状態や台風の接近など気象条件の変動に大きく左右される中であって、様々な自主事業等の運営によって利用件数や利用人員の増加につなげている。 ・仕様書や事業計画書に基づく事業の実施のほか、適宜事業実施計画を変更するなどの確に対応しており、指定管理業務は適切に実施されている。	B
	人員配置及び職員研修の状況	必要な人員が確保され、職員研修も実施されているか	各事業の担当等が決められており、業務を実施出来ている。また、ミズノ独自の接遇やマナー研修など、職員研修も適切に実施している。	B		
	文書・帳簿の管理保存状況	管理業務に関する文書・帳簿は適切に整理保管されているか	適切に整備、保管されている。	B		
	施設設備・備品の保守管理の実施状況	管理施設の設備・備品の保守管理状況は適切か	適切に整備、保守管理が実施されている。	B		
	緊急時の対応方法	緊急時の対応マニュアルや事後の対応への備えができていないか	各種マニュアルを作成して、適切に整備、保管されており、事件・事故等の記録の作成・保管や事後対応が適切に行われている。	B		
	利用者の推移	利用者が特別な事情がないにもかかわらず前年度に比べ減少していないか	平成29年度は利用件数は増加したものの利用者数が減少したが、平成30年度は利用件数及び利用者数ともに増加することができた。	B		
サービスの水準	サービス向上及び経営改善に関する独自の取り組み	サービス向上等に向けた独自の取り組みは実施されているか	様々な資格を有した専門スタッフによる講座の開催など、スポーツ関連事業者というメリットを生かした自主事業を実施している。	B	・スタッフ及びサービスの質は高く、的確な事業運営により、利用者へのサービス向上につなげている。 ・アンケート結果においては、利用者からの満足度は高く、更に、苦情・事故対応も的確に行われており、情報の共有化により再発防止にもつなげている。	B
	利用者満足度調査における施設満足度	利用者の施設満足度は高いか	年1回満足度調査を実施した結果は、感謝のコメントが多く、満足度は高い。	B		
	PR・情報提供の実施状況	様々な方法により、積極的なPRや情報提供が行われているか	広報かにはホームページ、ポスティング、窓口、SNSによるPRなど、積極的に情報の提供を行っている。	B		
	苦情処理の状況	苦情に関する帳簿が作成され、内容は職員に周知され、適切な対応がなされているか	苦情を含むご意見や感想に関する記録簿を作成して、その内容について情報共有し、適切に対応している。	B		
収支状況	指定管理経費の経理事務の状況	指定管理費に関する経理事務は適正に行われているか	指定管理に関する経理事務は、独立監査法人の監査等により、適切に行われている。	B	・指定管理者(法人)の経営状況は、安定しており、かつ、施設の経理状況、収支状況も良好である。	B
	指定管理者施設の財務状況	指定管理者施設の財務状況は適正か	平成29年度、平成30年度ともに黒字経営であり、適切に実施されている。	B		
総 合 評 価			初年度から概ね順調に事業を引き継ぐことができ、概ね計画通りに事業が実施されている。自主事業は自主財源での実施であるが、資格を有したスタッフが講座を開講するなど、スポーツ関連事業者というメリットを生かした事業展開がされている。 しかしながら、一部施設において利用者数、利用人数が減少していることから、原因把握が必要である。	B	「所見」欄に記載	B
所 見	・業務の履行、サービスの水準、収支状況については企業努力が認められる。 ・地域との調和を大切にしている点、利用者が望まれるサービスの提供や豊富な自主事業なども評価できる。引き続き、利用者の満足度を高めていけるように取り組んでいただきたい。 ・利用施設によっては利用件数・人員の減少も見られることから、原因の把握とともに、対応策の実施など、更なる的確な事業運営の展開を期待するとともに、子どもからお年寄りまで、市民の皆さんが幅広く利用できる施設づくりをお願いしたい。					

5. 参考(評価基準)

① 区分別評価基準

◆業務の履行

評価	内 容
A	適切に実施されており、より効果的に業務が実施されている
B	適切に実施されており、特に改善等を要する事項はない
C	おおむね適切に実施されているが、その一部に改善を必要とする事項が見受けられる
D	要求事項が実施されてないか、実施されていても適切ではないため大幅な改善が必要である

◆サービスの水準

評価	内 容
A	サービス水準の向上が認められ、独自の工夫も多く見受けられる
B	サービス水準はおおむね維持されている
C	サービス水準の一部に低下が見られ、サービス向上の努力が必要である
D	サービス水準が低下していると認められるため、サービス向上に向けた大幅な改善が必要である

◆収支状況

評価	内 容
A	収支は計画に比べ向上が見られる。財務状況も良好である
B	収支はおおむね計画どおりと認められる。財務状況は良好である
C	収支のいずれか、又は両方が計画を達成していない。財務状況は良好である
D	収支のいずれも計画を達成していない。財務状況も良好とはいえない

② 総合評価基準(評価指標の①②のいずれかの基準を採用し、評価を決定する)

評価	内 容
A	① 全ての評価がB以上で、Aの割合が60%以上である
	② 適切に実施されており、評価できる点が多く、改善が必要と思われる重要事項もない
B	① 全ての評価がB以上で、Aの割合が60%未満である
	② おおむね適切に実施されており、評価できる点もあるが、軽微な事項を含め改善が必要な事項がある
C	① A・Bに該当せず、Dの割合が30%以下である
	② 適切に実施されている部分もあるが、改善が必要と思われる重要な事項もある
D	① 上記のいずれの評価にも該当しない
	② 改善が必要と思われる重要な事項が多く、早急な改善が必要である